

幼研だより

【発行所】

久留米市幼児教育研究所

久留米市荘島町11番地1

(総合幼児センター2階)

電話 (0942) 35-3812

創刊：昭和54年5月15日



今年度から始まった作業訓練の紹介



○目的

発達に遅れ、または偏りのある子ども達に対して、年齢や認知特性に応じた視覚的支援や環境を考え、適切な行動へと導き、社会への適応を促す訓練を実施することです。

○対象児

集団活動が苦手で絵や文字、言葉に表象機能があることに気づいているまたは、気づき始めている幼児です。

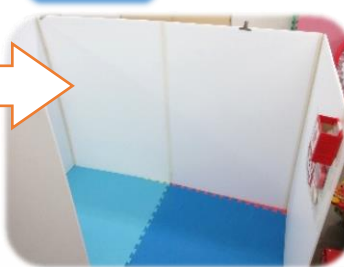
物理的構造化

目的別に環境を設定することで何を行うのかが明確になります。

集中するためにパーテーションで区切ることもあります。

○内容

★のカードを入れるよ



遊びの終了をタイマーで知らせます。

自分が遊びたい玩具を選んで大人に要求します。



予定を視覚化したスケジュールを提示しています。どこで、何を行うのかがわかりやすくなっています。

子どもが楽しく学べる課題を提示しています。この課題を通して手先を使ったり指示された通りに組み立てたり、手順書の見方も学習します。



担当者より

視覚的な支援（環境）を行うことで、安心して効率的に学習するのを助け、子どもの困る状況を少しでも減らしていくことができればいいなと思っています。

令和5年度子育て講演会

「こんな時どうする!？」



～子どもの行動に慌てない! 子どもへの適切な関わり方～

令和5年7月22日、久留米市教育センターにおいて子育て講演会を開催しました。今回は、幼児教育研究所利用児の保護者を対象に、「こんな時どうする!？～子どもの行動に慌てない! 子どもへの適切な関わり方～」と題して、幼児教育研究所の家村明子（医師・主幹）と鬼木美穂（臨床心理士）が講演を行いました。

＜ペアレントトレーニングについて＞

うまくできたことをほめる

- ・すぐにほめる（2～10秒以内!）
- ・子どもに合ったほめ方をする
- ・当たり前のことでもあえてほめる
- ・具体的に何が良かったかを伝える
- ・肯定的な声かけもほめることになる

今、片付けがすぐできたね。
かっこいいね!
お母さん、とっても嬉しいな。



指示をする

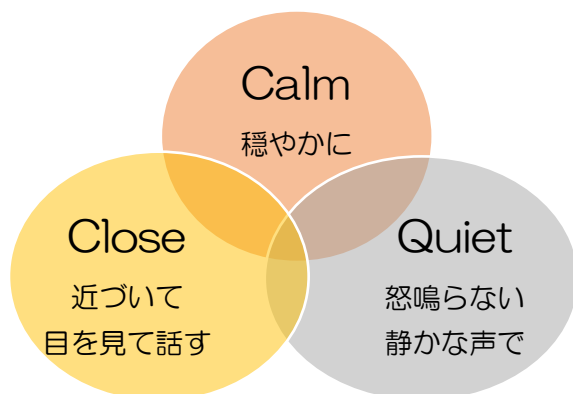
結果をほめる
＝評価指示に従うこと
ができる

子どもができるように工夫する（わかりやすく工夫する）

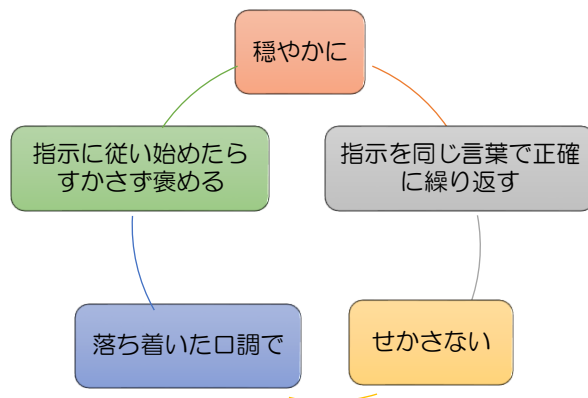
- ・事前に予定を視覚的に示す
- ・指示やルール、手順などを視覚的に示す
- ・目の前の事に集中しやすいように、気が散るものは隠す
- ・行動を始めやすいように、手がかりを目立たせる

わかりやすく伝えるテクニック

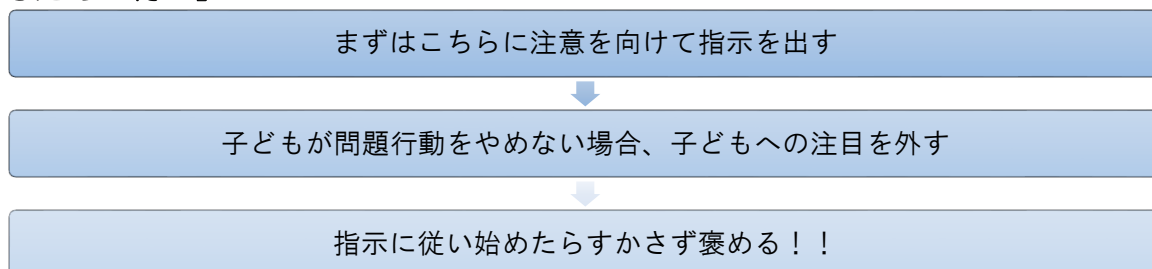
【従いやすい指示を出す】



【子どもが指示に従わない時】



【ほめるために待つ】



グループワーク 事例をもとに、グループに分かれて行動の原因や対応について考えました！

事例～買い物の時の駄々こね～

ハナコちゃんはお家の人とスーパーに來ています。スーパーに入る前に「おかしは1つ買える」と約束してきました。買い物が終わるまでそばで待つことができました。しかし、最後にお菓子売り場でお菓子を選ぶ際、2つ買いたいと大きな声で言い始め、泣いてその場に寝転んでしまいました。お父さんは周りの目も気になります。どう対応したらいいのでしょうか？



- ① 過去の経験から、泣いたらお菓子を買ってもらえる！と誤って学習してしまっている。
- ② 「約束する」ということがまだ難しい。
(自分の気持ちを我慢したり目の前にあることに気持ちが向きやすく、先の見通しを持って行動することがまだ難しい。)
- ③ 家ではがまんすることができるが、刺激が多いと自分で気持ちを抑えることが難しい。



褒めるために待つ……不適応行動には反応しない

(不適応行動には大きく反応せず、数分間、その場から離れるなどして気になる行動に目を向けず注目しない。好ましい行動をとることができたら必ずほめる)

園に預けているときに保護者のみで買いに行く

アンケートより

- ・ペアレントトレーニングの技術を教えていただけて助かりました！帰宅後より実践しています。さっそく資料の技術の部分の切り抜いて、目のつく所に貼っています。
- ・この講演会に参加して、ペアレントトレーニングを初めて知りました。内容もわかりやすく、グループでの意見交換も楽しい時間でした。今後の子育てで実践していきます。
- ・「こういう時どうしたらいいんだろう」と悩んでいた子どもとの関わり方がわかりました。
- ・自分だけではなく、ほかの家庭も悩んでいることなんだなと感じられ、一緒に話し合える機会があってとても良かったです。

今年も「にじいろのーと」サポートブックを作成する時期になってきました！

「にじいろのーと」は、子どもに関わる先生や保護者の方々の声から生まれたサポートブックです。

この中には、進学先のクラスや学校全体での配慮の仕方、周囲の子どもとのコミュニケーションのとり方など、具体的なサポートの方法が数多く示されています。

発達上の課題を持った子どもと関わる一人ひとりがどのように工夫すればよいかを考える時のヒントとして活用していただければと願っています。

実際にサポートブックを手にとったことのある小学校の先生にインタビューしました。

問：どのような経緯で先生はサポートブックを手にししましたか？

答：お母さんに「作ってあるなら見せてください」とこちらから伝えたところ「支援のヒントになれば」と手渡していただきました。

問：これまでに利活用されたことはありましたか？

答：好きなことの情報を得られたので、活動が終わったお楽しみに使ったり、活動に興味を持って取り組んだりすることができるように活用しました。

問：学校生活のどんな場面で役に立ちましたか？（具体的な例をお書きください）

答：苦手なことの把握 誉め言葉 どんな活動をしてきたのか等々

場面としては、排泄、授業の環境、休み時間（余暇の過ごし方、好きな遊び）等

☆サポートブックに対する思い

答：頑張って作成してくださった保護者や関係機関の方の想いをしっかり受け止め、支援をつないでいきたいと思っています。

「にじいろのーと」の取り扱いについては

子どもの理解や支援方法の個人情報他に、支援者や関係機関に関する情報も多く含まれていますので、以下の点に配慮して慎重に取り扱いいただくようお願いしています。

- 1 管理・保管の責任は保護者にありますので、保護者の許可を得た支援者だけがこのノートを見ることが出来ます。
 - ◇ 机上に放置するなどして、不特定の第三者が閲覧することがないようにする。
 - ◇ 情報の共有を理由に、支援と無関係の職員に回覧することがないようにする。
 - ◇ ノートの受け渡しについては、当事者間で行う。
- 2 保護者の承諾なしにコピーなどをして二次的に使用することはできません。
 - ◇ 研修会や事例集などの資料としてコピーを掲載しない。
 - ◇ 保護者の承諾なしに他機関からの紹介には回答しない。

